

「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク」 設立記念シンポジウム 開催概要

開催日時・会場

平成23年8月30日(火) 14:00~17:30
(政策研究大学院大学 1F 会議室A・B・C)

参加者数

143名 (自治体職員71名、大学関係者38名、地域づくり団体関係者等34名)

次第

開催挨拶 横道 清孝 政策研究大学院大学教授

総務省挨拶 門山 泰明 総務省地域力創造審議官

基調講演 大森 彌 東京大学名誉教授

「自治体職員と大学教員 一何に挑戦するのか」

特別講演 宮口 侗迪 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

「地域と付き合って30年」

特別講演 安田 喜憲 国際日本文化研究センター教授

「農村文明の時代へ」

パネルディスカッション

「地域実践活動の現状と課題」～東日本大震災の復旧・復興支援にもふれながら～

- ・コーディネーター 新川 達郎 同志社大学大学院教授
- ・パネリスト 小西 砂千夫 関西学院大学教授
- ・パネリスト 名和田 是彦 法政大学教授
- ・パネリスト 沼尾 波子 日本大学教授
- ・パネリスト 大宮 登 高崎経済大学教授

閉会挨拶 高橋 紘士 国際医療福祉大学大学院教授



「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク」 設立記念シンポジウム 開催概要

＜その他＞

資料として、地方自治体を対象としたアンケート「大学教員との地域実践活動の現状について」とりまとめ結果を配布

○概要

- ・実施時期：2011年2月～3月 ・対象：1,416地方自治体(都道府県・市町村)、回収率80%
- ・地域実践活動を現在実施している地方自治体：42.5% ・過去に実施していた地方自治体：15.3%
- ・これまで実践したことはないが今後実践を検討または構想している地方自治体：15.3%(210団体程度)
- ・地域実践活動の主な内容
地域おこし・地域活性化関係：68.1%、教育・文化・スポーツ関係：15.8%
- ・成果
大学に集積する知識、情報、ノウハウや若い人材力の活用により地域の活性化が図られた、学生による外部からの刺激・気づきを得られたこと、実践活動がメディアに取り上げられたことによるPR効果など
- ・今後検討・構想している地域実践活動の内容
地域おこし・地域活性化関係68%、教育・文化・スポーツ関係12.9%
- ・大学との連携に対する意欲
 - ・今後自治体が検討または構想している活動数：約360件(うち「地域おこし・地域活性化関係」：68%)
 - ・約360件のうち半数は連携する大学が見つかるが、残り半数は連携先を探している現状
 - ・「現時点では大学連携の予定がない」としながらも「必要性は感じているが適当な大学がない」が90件
- ・課題
「地域実践活動の事例が知りたい」：42.8%、「連携のノウハウがほしい」：28.8%

